

人権だより

No.325 (2025.6)

「気付き」から「行動」へ

総務課 竹長 彩子

みなさんは、職員室の前に掲示されている人権啓発コーナーを
見たことがありますか？人権教育相談課の先生が頻繁に更新して
くださっているの、私はふと気付いたときには立ち止まって読む
ようにしています。今は、職業犬、特に盲導犬についての内容です。



実は、以前買い物をしていたとき、盲導犬を連れた方がレジ近
くで立ち止まっているのを見かけました。何かあったのかな、でも誰かを待っているだけかも、
などと考 えながら声をかけようか迷っているうちに、別の方が近づいてレジへと案内をしてい
ました。安心したと同時に、咄嗟に対応できなかった自分を情けなく思いました。掲示の
一部、『盲導犬ユーザーに出会ったとき』にはこんな風書いてあります。「もし困っていたら、
『何かお手伝いすることはありますか。』と声をかけてください。」あの時の私も、そう言えば
よかったのですね。今思えば当たり前に出てきそうな言葉なのに、思いがけずその場に居合わ
せたとき、なんて声をかけたらよいか、まったく浮かばなかったのです。

こういったことは、私たちの周りでこれからもきっとあるでしょう。盲導犬ユーザーに限ら
ず、聴覚障がいのある方、車椅子に乗っている方、また、見た目には分からない障がいを抱え
ている方もいます。私たちに知識がなければ、声をかけるのを躊躇したり見逃してしまったりす
るその人の困りごとを、もし知識さえあれば、気付き、手助けすることができるようかもしれません。
だからこそ、その「気付き」の一步として、「知識」は大切だと強く感じます。そして、「知識」と
は、「行動」に移す方法や言葉と一緒に学ぶことが必要だと気付きました。私も、盲導犬ユー
ザーのことを何も知らなかったわけではありません。それまでも同じ方を何度か見かけてい
たこともあり、我が子たちに、目が見えないから盲導犬が道しるべになっているんだよ、だから
触ったり近くで大きな声を出したりしてはいけないよ、という話をしていました。でもこれから
は、もし困っているような時は、どうしたらいいかな？まで、一緒に考えたいと思います。

「人権」について、もっと簡単に言えば、人と人との支え合いについて、一人一人が日ごろ

から考^{かんが}えたり学^{まな}んだりしていれば、世の中はずっと優^よしいものになるはずで^なす。誰^{だれ}にとっても身^み近^{ぢか}で、でも普^ふ段^{だん}から気^きを付^つけていないと見^み過^すごしがちな人^{じん}権^{けん}。共^{とも}にこの社^{しゃ}会^{かい}に生^いきる者^{もの}として、お互^{たが}いに学^{まな}び続^{つづ}けてい^{つづ}きましょう。

【人権委員の声】

僕^{ぼく}もバ^{でん}スや電^{でん}車^{しゃ}に乗^のっているときにバ^うスの運^{うん}転^{てん}手^{しゅ}さん^わと手^て話^わで会^{かい}話^わをさ^{かた}れている方^みを見^みかけ^かたこ^こがあ^あります。それ^{それ}を見^みて、手^{しゅ}話^わはで^でき^きないけ^けど、手^て伝^でえ^えるこ^こがあ^あるか、す^すぐに聞^きいて^{おも}みたいと思^{おも}いま^ました。(3年^{ねん}生^{せい} 人^{じん}権^{けん}委^い員^{いん})

知^ち識^{しき}とは、行^{こう}動^{どう}に移^{うつ}す方^{ほう}法^{ぽう}や言^{こと}葉^ばも含^{ふく}めて学^{まな}ぶこ^こが切^{たい}切^{せつ}だとい^いう部^ぶ分^{ぶん}には^はと^としま^ました。知^しっ^てい^いるだ^だけ^けでは、行^{こう}動^{どう}につ^つな^なが^がら^らないとい^いうこ^こに改^{あら}た^ため^めて気^きづ^づき^きま^ました。「何^{なに}かお手^て伝^でい^いすこ^こはあ^あり^りま^ませ^せんか」はた^たった一^{ひと}言^{こと}だ^だけ^けど、それ^{それ}が^おお^おき^きな支^さえ^え合^あいにつ^つな^ながる^るのだ^だと思^{おも}いま^ます。(3年^{ねん}生^{せい} 人^{じん}権^{けん}委^い員^{いん})

自^じ分^{ぶん}が困^{こま}っ^てい^いる時^{とき}に声^{こえ}を^あん^んし^{しん}ん^んで^でら^わた^たし^しだ^だれ^れの力^{ちから}にな^なれ^れるよ^ような行^{こう}動^{どう}が^{ひと}で^おも^もい^いた^たと思^{おも}いま^ました。身^みの回^{まわ}り^ちに^きあ^ある小^こさ^さな気^きづ^づき^きが、人^{ひと}と人^{ひと}との支^さえ^え合^あいにな^なるん^んだ^だな^なと思^{おも}いま^ました。(5年^{ねん}生^{せい} 人^{じん}権^{けん}委^い員^{いん})

私^{わたし}は車^{くる}椅子^{まい}の方^すや盲^{かた}導^{もう}犬^{どう}を^{けん}連^つれ^かて^かい^{こう}り^りゆう^うかい^{かい}さん^{さん}か^かに参^い加^ろしたこ^こがあ^あっ^て、色^{いろ}んな体^{たい}験^{けん}やお^はな^なし^しき^きを聞^きいたこ^こがあ^あるけ^けれ^れど、実^じ際^{さい}町^{まち}に出^でて出^で会^あうと、な^なか^なな^な行^{こう}動^{どう}には^はう^うつ^つせ^せないと思^{おも}いま^ます。そ^そうい^いう時^{とき}にす^すぐに^{こう}ど^う行^{ゆう}動^きで^ちし^しき^きを^しっ^かり^り身^みにつ^つけ^けさせ^せたい^いで^です。(6年^{ねん}生^{せい} 人^{じん}権^{けん}委^い員^{いん})

人権教育相談課より



今^{こん}回^{かい}、執^{しつ}筆^{ぷつ}い^いた^ただ^だいた竹^{たけ}長^{なが}先^{せん}生^{せい}の文^{ぶん}章^{しょう}に登^{とう}場^{じょう}した盲^{もう}導^{どう}犬^{けん}。目^めの^み見^みえ^えに^{ひと}く^くい^いの歩^ほ行^{こう}支^し援^{えん}のた^てめ^め、点^{てん}字^じブ^ぶロ^ろク^くとス^すマ^まー^まト^とフ^ふォ^おン^んを^{かつ}よう^{よう}に^{おん}せい^{せい}に^{あん}ない^いひ^ひろ^ろを^みせ^せて^てい^いるそ^そう^うで^です。点^{てん}字^じブ^ぶロ^ろク^くにマ^まー^まク^くを^つ付^かけ^けて「コ^こー^こド^ど」化^かし、それ^{それ}をス^すマ^まホ^ほのカ^かメ^めラ^らとア^あプ^ぷリ^りで読^よみ^と取^とるこ^こと^たと^と、例^ええ^えば、「こ^こは〇〇^お〇^お〇^お番^{ばん}線^{せん}ホ^のー^のム^ぼへ^の上^のり^{かい}階^{だん}段^まえ^えで^です。前^{ぜん}方^{ぽう}は、上^のり^{かい}階^{だん}段^まえ^えで^です。右^{みぎ}は、〇〇^{ひだり}、左^{ひだり}は〇〇^{げん}です」とい^いうよ^ような、現^{げん}在^{ざい}地^ちや周^{しゅう}辺^{へん}情^{じょう}報^{ほう}な^などを聞^きくこ^こが^かん^{かん}こ^{こう}じょう^{ほう}え^えが^{かい}り^りよう^{よう}に^{すす}め^めら^られ^れて^てい^いるそ^そう^うで^です。

「見^みえ^えないか^からとい^いっ^て、外^{そと}に出^でない^でと社^{しゃ}会^{かい}と^せの接^せ点^{てん}が^かく^くな^なる。1人^{ひとり}で外^{がい}出^{しゅつ}する勇^{ゆう}気^きをく^くれ^れるシ^しス^すテ^てム^むだ。」と、こ^この点^{てん}字^じブ^ぶロ^ろク^くの^{じっ}し^しよう^{よう}じっ^{けん}の^{さん}か^かし^しや^やは^はな^な。

人^{ひと}と人^{ひと}との支^さえ^え合^あいのみ^みな^なら^らず、こ^こう^さい^いし^{しん}き^きの^{かい}は^はつ^つじ^じぶ^{ぶん}ん^んと人^{ひと}と^ちから^{から}の^い生^{せい}きる^き力^{りき}にな^なり^りま^ます^すね。

(参^{さん}考^{こう} 2025年^{ねん}6月^{がつ} 12日^{にち} 愛^え媛^{ひめ}新^{しん}聞^{ぶん})